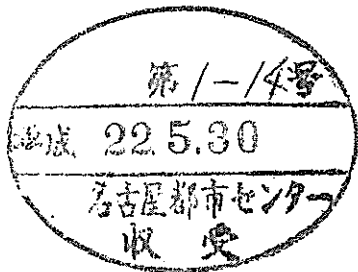


第1号様式（一部公開）

平成22年5月30日

（あて先）

財団法人名古屋都市整備公社理事長



申請者

所在地	
公開 名称	中川運河キャナルアート実行委員会
代表者	

まちづくり活動助成申請書

当団体のまちづくり活動について、名古屋都市センターまちづくり活動助成金交付要綱による助成を受けたいので、下記のとおり申請します。

記

1 助成を受けようとする部門（該当部門を○で囲んで下さい）

○地域“魅力”アップ部門 ・ “はじめの一步”部門

2 団体の活動について 公開

審査基準⑤ 活動実績 と主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか （団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。） ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
<p>※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚（両面）までを限度とさせていただきます。 団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。</p> <p>学識者や市民、行政により、2009年初旬から中川運河の有効活用を考える「中川運河戦略プラットフォーム」が立ち上がり、その中でアートイベントをとおした市民意識の向上が検討され始める。09年9月、1) 感性を育む、これまでにない「アート表現」の場へ 2) 名古屋発のアート+クリエイティビティの「情報発信基地」へ 3) 自然と共にある、「人々の憩いの空間へ」と運河の水辺空間を再生し、「感性都市」名古屋の顔としていくべく市民意識の向上を図ることを目的としたアートイベントの準備が本格的に始動し、10年5月に実行委員会の設立に至る。</p>	

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	中川運河キャナルアート		
団体名	中川運河キャナルアート実行委員会		
提案の活動を行う地域	中川運河小栗橋周辺(名古屋市中川区月島町、横堀町)の河岸と倉庫		
提案の内容	<p>都市にある貴重な水辺空間でありながら、市民からその存在を忘れられた中川運河を再生し、「感性都市」名古屋の顔としていくべく、市民意識の向上を図る。そのために、アートをとおして中川運河の存在とポテンシャルを広く市民にアピールする。</p> <p>具体的には、周辺環境から取材した映像作品をはじめとするサイトスペシフィックなアートの展示をとおして、中川運河の魅力を発信する。展覧会のほか、倉庫空間を使ったパフォーマンスや演奏会等のイベント、会場周辺へのコスモスの植え付けも実施。</p> <p>1) 運河を取材した映像作品など、場所や地域に根ざしたアート作品（約8作家）の展覧会の実施 2) 運河や水辺空間に関連するパフォーマンスやダンス、地元で営業する(株)鈴木バイオリンにちなんだ演奏会の実施 3) 運河を眺められる仮設カフェスペースの設置 4) 河岸にコスモスの植え付けをし、エリアの美化を図る</p>		
活動期間	平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	助成金交付申請額	50 万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none">・地域に根ざしたまちづくり活動内容か・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か・地域との連携や協力が得られる活動か・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か
--------------	---

(提案活動の必要性について上記観点から簡潔に分かり易くご記入下さい。)

※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。

1930年に旧国鉄笹島駅と名古屋港間の物流を図る目的で作られた中川運河。陸上輸送の発達や笹島駅廃止により近年の使用頻度が極めて低いものの、依然として工業地域指定のまま河岸には倉庫が林立し、市民からは忘れ去られている。現在、土地所有者である名古屋市も再生の必要性を認識し、整備を計画中であるが、真の意味での市民の憩いの場となる水辺空間の実現のためには、環境の整備と並行して市民レベルでの活動が必要である。現在、周辺住民の多くは運河の存在をほとんど意識せずに生活しているようだが、このアートイベントをとおして中川運河のポテンシャルを感じてもらい、周辺住民を巻き込んだ活動に展開していきたい。

審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none">・創意工夫にあふれた活動か・地域性を活かした個性豊かな活動か・新しい視点やアイデアがあるか
--------------	---

(提案活動の独創性について上記観点から簡潔に分かりやすくご記入下さい。)

「アートでまちおこし」が大流行の昨今ではあるが、今回の企画は単ににぎわいづくりを目的としたものではなく、かつては名古屋の物流を支えた中川運河の産業遺産としての側面に注目し、今後このエリアがアート+クリエイティブの情報発信基地となり、さらには名古屋の都心に市民に開かれた運河を再生させることを展望したアートイベントである。したがって、展示するアート作品も既存のものではなく、中川運河の周辺環境から取材した新作を予定している。

また、河岸にコスモスを植えつけ、運河周辺の風景を一変させることで、アートに興味がない市民にも関心を持ってもらえる内容としている。

上記以外にも様々なイベントやシンポジウムを開催し、中川運河に関心のなかった人々が集まる仕掛けも盛り込んだ提案である。

審査基準③ 実現性 <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的になっているか ・予算は妥当か 	
時期	活動内容
平成22年4月	実行委員会設立 会場確保、協賛企業回り 周辺住民への説明会 アートイベントの実施
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
平成23年1月	
2月	
3月	
<p>学識者や市民、行政により、2009年初旬から中川運河の有効活用を考える「中川運河戦略プラットフォーム」が立ち上がり、その中でアートイベントをとおした市民意識の向上が検討され始める。09年9月、アートイベントの準備が本格的に始動し、10年5月に実行委員会の設立に至る。</p>	
審査基準④ 発展性 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか 	
<p>(提案活動の発展性について上記観点から簡潔に分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>アートイベントをとおして中川運河の存在を広く周知させ、人々の感性を育む水辺空間の重要性、そこでの中川運河の魅力とポテンシャルを伝えることをとおして、都心にある貴重な水辺空間である運河に対する市民の意識を高める。そこから、運河の活用のあり方（周辺倉庫等のアート&クリエイティブの発信基地としての活用をとおした市民の憩いの場の実現など）を探りながら、周辺住民を巻き込みながら中川運河の再生を図っていく。</p>	

※ 第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。

※ 用紙の大きさは、日本工業規格A4とします。